

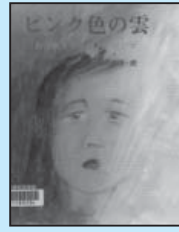
親子で読みたい平和を考える本



「永井隆
〜平和を祈り
愛に生きた医師〜」
中井俊巳／著



「アンネ・フランク
〜短い生涯を
日記に残した少女〜」
アン・クレイマー／著



「ピンク色の雲
〜おばあちゃんの
ヒロシマ〜」
宇留賀佳代子／文
稲田善樹／絵

ねがわくば、この浦上をして世界最後の原子野たらしめたまえ。白血病を背負い、原爆の被害にあいながらも、医者として力をつくし、たくさん本を書きながら平和を訴え続けた医師・永井隆の生涯をたどる。著者は、1959年鳥取県生まれ。長崎大学教育学部卒業。小・中学校勤務を経て、作家・教育コンサルタントとして執筆・講演活動をおこなう。著書に「オッケー!」「マザー・テレサ愛の花束」など。
(小学校中学年向)

第2次世界大戦下のヨーロッパを生きつたユダヤ人少女、アンネ・フランク。彼女の幼い頃から、普通の暮らしをしていた頃、秘密の隠れ家での生活、そして強制収容所で生涯を終えるまでをビジュアルで紹介する。著者は歴史学で名誉学位を取得後、30年余にわたって執筆、編集にたずさわる。
(小学校高学年向)

おばあちゃんはヒロシマの被爆者。美しいピンクの雲は恐ろしい原爆雲だった。祖母から娘、孫へと語り継ぐ、被爆体験と平和への願い。母の体験を語る宇留賀佳代子と、平和の風景を求めて世界を旅する稲田善樹からのメッセージ。著者(宇留賀)は会社勤めの後、子育てをしながら辞書の校正に従事する。
(小学校低学年向)

8月の催しもの

とき	催しもの
3日(日) 11:00～	夏休み工作教室
6日(水) 10:30～、14:30～	原爆のビデオ上映
17日(日) 11:00～、14:00～	子どもビデオ劇場
23日(土) 10:30～	のりくんのおじさん
24日(日) 15:00～	おはなしホッとタイム
31日(日) 11:00～、15:00～	子ども科学教室
毎週木曜日 10:00～12:30	あかちゃんクラブ ラッコルーム
毎週土曜日 14:00～	「おはなし」と 「あそび」の広場

その他の平和の本

- ◆「戦争—世界地図から学ぼう国際理解—」
古内洋平／著 こどもくらぶ／編
- ◆「ぼくと弟はあるきつづける」
小林豊／作・絵
- ◆「ミサコの被爆ピアノ」 松谷みよ子／文
- ◆「語り伝える空襲 第1巻
10万人が殺された日」 安斎育郎／文・監修
- ◆「ながいながい旅
～エストニアからのがれた少女～」
ローセ・ラーゲルクランツ／文
- ◆「汽笛」 長崎源之助／作

俳句

「罌雲」
ふそう俳句会

山の子に短き休み罌雲
父も逝き母も逝きけり夜の涼み
炎天や詔勅下り戦止む
平松久仁子
古田悦子
真野しげる

川柳

扶桑川柳クラブ

半世紀ぶりの会話は夜更けまで
市街化の宅地に作る夏野菜
八事坂善意の椅子に腰預け
高木節子
高野瀬徳子
牧田はな

短歌

「魚の眼」
ふそう短歌会

水底の魚の眼に見えしもの
思う夕べや星ふたつ見ゆ
咲きほこる沙羅双樹の花地に落ちて
ひいふうみいと孫数えゆく
眼を閉じていても分るはトマトの香
北村久子
高木和子
大西栄子

詩吟

「海南行」 細川頼之

人生五十功無きを愧ず
花木春過ぎて夏己に中ばなり
満室の蒼蠅掃えども去り難し
起つて禅榻を尋ねて清風に臥せん

「意」 五十を過ぎたのに功績もなく恥ずかしい。花の咲く春も過ぎ夏もなばになつて居る。部屋の中をあお蠅が追い払つてもうるさく飛び交うように、つまらぬ人達の動きがうるさく思う。されば郷里に帰り禅道に入り清風に臥せんと。
山内 正風